

7 番（小川義昭君）

次に、大別 2 つ目の質問となります。

情報公開と白山市公共施設の統廃合及び管理見直し方針についてお尋ねいたします。

この質問のテーマは、端的に言って施設見直し内容より、まず市民参加による進め方の理念と手順を積み上げることが見直しの鍵を握るという視点であります。民主主義、地方自治の根幹だとする他市の先行事例も公開されております。これらも参考に思い切った行政手順の見直し、市民参加のプログラム構築に着手することを提言し、ここでは少し個別の問題点にわたりながら質問いたします。

本市が昨年 2 月、市民に公開した白山市公共施設の統廃合及び管理見直し方針、及び 10 月の地域・地区別の施設管理見直しは、平成 17 年 3 月以来、私が議会人としてこの壇上から執行部に提言してまいりました各種施策内容を総合的に判断しますと、どうも関連づけが見られないように感じられます。

私の政治信条は、今回の選挙でもその 1 番目に訴えたのは市民が主役、情報公開のまちづくりでした。私は民主主義で最も大切なものの一つに情報公開があると思っています。どんなにすぐれた人でも正確な情報がなければ正しい判断は下せません。また、得られた情報が正しい情報でも下す判断が正反対になることも珍しいことではありません。このような意味で情報とは新しい酸素を含んだ血液であり、常に新しいものが求められ、そして続けられるものであります。市民の相互理解や納得の基盤であります。

本市では厳しい財政状況に対応していかなければならないことから、重複感のある各種の公共施設に対し、その適正な配置に向けた見直しは避けて通れないとの認識は十分理解しているところであります。

しかし、市民の皆様に公開した公共施設の今後のあり方に係る情報内容と進め方の手順などが現実に各所で問題視され、市民の皆さんの不満、不信感、拙速感をあおる原因となっていることは否定しきれないものであります。地域の間で市民意識の分断や亀裂、相互非難に及ぶ危惧さえ心配するものであります。

こうした現状を打開するために、まずは本市が全市域にわたって保有している公共施設の全体像を明確に公開することが肝心でしょう。その上でそれぞれの現用途、地域事情や経過、転用や代替えや存続形態の可能性、ほかさまざまな情報を住民市民の議論をいとうことなく分析し合い、納得性や妥当策を粘り強く探り合うことが不

可欠かと考えます。つまり、公共施設の現状把握と存在認識が重要であります。

そこで、執行部が市民に提示しました白山市公共施設の統廃合及び管理見直し方針、及び地域・地区別の施設管理見直しについて、大きく以下の4つの視点から検証し質問することといたします。

5番目の質問です。

私は平成20年9月定例会と平成22年6月定例会の2回にわたって、公共施設の管理体制の一元化関連問題について市長にただしましたところ、「平成21年度に管理台帳様式の統一化とデータ整理が完了した」と答弁されました。

今回公開した公共施設見直し方針は、当然、各所管課で分散、管理している公共施設のデータを整理し、管理台帳様式の統一化とデータ整理が完了したことに基づいた上で、全庁的に公共施設情報を共有化させ、本市の公共施設の現状と課題を把握して作成されたものと推測されますが、その全体像が私には見えません。本当に活用したのでありましようか。

そこで、この公共施設の管理台帳様式の統一化が完了したことに当たり、将来にわたる本市の公共施設の更新費用の観点からも、公共施設の保有総量の検証についてお尋ねいたします。